

79

奈良專二著

再版 食用兔飼養法

一名 家畜の親玉



064873-000-0

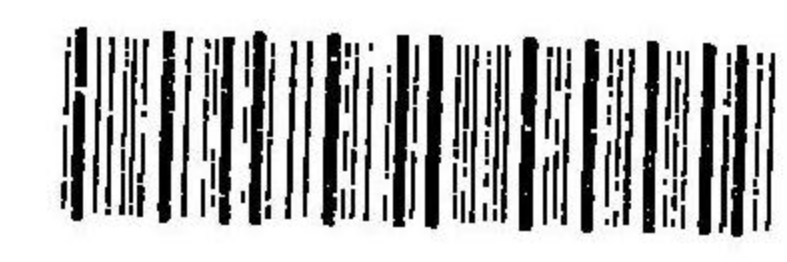
特25-45

食用兔飼養法

奈良 專二/編

M24

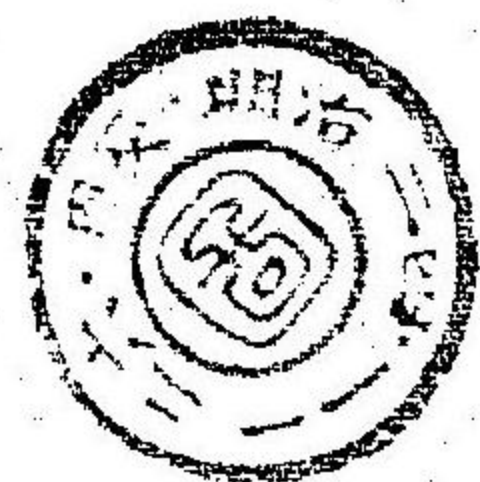
CCD-0332



東京國語館藏



十七翁奈良專二



緒言

兎は脊椎動物部内獸類錯齒族の一種にして繁殖甚だ盛んなるのみならず他の獸類家禽の如く多くの飼料を要せず唯野草を食して其生命を保ち眞に可憐の小獸なるが故に西洋各國の小民は必らず兩三頭を家に飼育し常に食料に供し且毛皮を賣る事猶我國の農家に三五の家雞を養ひ卵肉の需用に充つるが如く亦其肉味は鳥肉と齊しく頗る好美あるが故に我國に於ても古來より飲膳に供し魚鳥の初めと舉たるよし朝野群載及び庖丁聞書尺素往來等の古書に見へ殊に徳川幕府の頃に在ては將軍の祖先開運の吉例かりとて毎年一月二日の祝膳には必らず兎の羹汁を用ふるの例式にして欠くべからざるものなりとぞ又古來我邦の舊慣にて

猪鹿牛豚等の肉は嗜まざるものあれば雞兎の肉に至りては貴人高位の人と雖も食せざるものなきは皆人の知る處なれと未だ兎を飼養して其繁殖を圖るものに至りては世間甚た少くとせず殊に近來肉食改良の説最も盛んにして牛羊雞豚共に其需用夥しく即今に至りては需用供給將に其比例を失ひ漸次肉類の缺乏を來し終に馬肉を販賣して補缺するに至れり亦一方に在ては服制の一變せる爲め毛織物の要用日に増し多きを加ふるの今日に當り旁此兎をして戸毎に飼ひ家毎に養ふに至らば一は獸肉の缺乏を補ひ海外の輸入を防ぎ一は村居民家の生計を助け其利益究めて許多なるべし故に予は今此兎をして普ねく我國の農家に飼育せしむる事猶彼の家禽の如くならしめん事を希望せし頃日友人

奈良專二翁食用兎を飼育繁殖せん事を計り此養兎法一篇を草して予より訂正せん事を求む之れ恰も予の意見と投合せるを以て嘗て予が知る處の説を補足して翁に與ふ是れ即ち此書を著述せる所以かり覽者夫れ之を諒せられよ

明治廿二年四月

片岡橘坪識

目録

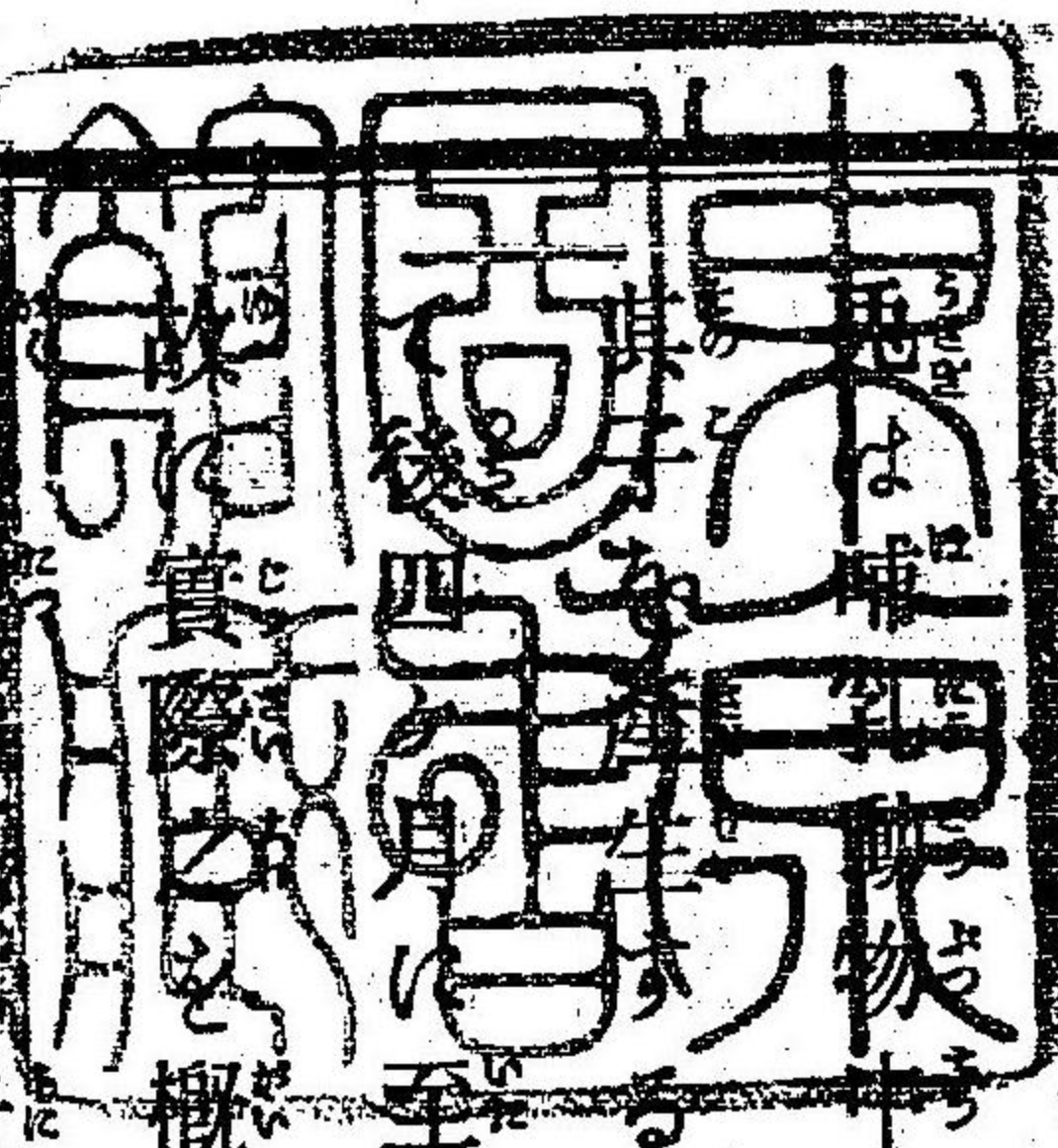
一 兎蕃殖割合の事	一丁
一 兎を飼ふ目的の事	二丁
一 兎種類の事	五丁
一 兎鑑定の事	七丁
一 飼料種類の事	九丁
一 食餌分料の事	全
一 兎飼養方注意の事	十一丁
一 兎箱飼の事	十二丁
一 兎放牧飼の事	十三丁
一 牝牡配合比例の事	十五丁

- 一 交尾及分娩の事 十六丁
- 附 分娩後の交尾 分娩の期 孕を知る法 分娩の兆候 乳母の交換
- 一 兒なき牝兔に兒を生しむる事 十九丁
- 一 病兔治療法の事 全
- 一 兔割割調理の事 二十二丁
- 一 兔皮を製せる事 二十三丁
- 一 兔の毛を採取する事 二十四丁

再
食用兔飼養法

奈良專二編輯
片岡橘坪補訂

○ 兔蕃殖割合の事



其繁殖の盛んたるは實に驚愕すべきものにして
 一年七次なり每次八頭を生む豫算とし其子生れ
 後四ヶ月に至れば又能く交尾し後ち三十日間にして子を産す
 故に實際の概算すれば一雙の兔にして一ケ年凡六百餘頭の巨
 額の達せべし豈莫大のものならや既に緒言にも謂へる如く飼
 料の費用少なくて斯く繁殖の盛んなるもの他の畜類中蓋し兔
 に勝るものあらざるの証とせばさなり故に予は戯れて此書を題

號するに一名家畜の親玉を以てせり

因に云ふ兎は十次の分娩を得るは通常なりと雖も梅雨明き大暑の最中に分娩するときは雛の飼育頗る難きものなれば六七の二ヶ月の交尾せしめざるを宜しと故に先づ一年七次を以て適當のものとする又兎の生るゝは平均七頭となせども多きもの十二頭を生むものあり稀には一二頭のものもあり斯かる兎は成長の後必ず肥大のものとなれば愛護して飼養すべき事なり併し東北地方の寒國にては大寒より殘寒迄交尾せしめざるを宜しとぞ

○兎と飼ふ目的の事

兎を飼ふ目的の其肉を以て食用に充て又其皮を賣り或は毛を取

り織物とし又ハチヨツキの裏等に用ふるにあり故に肉を以て食料となすものは體肥へ肉の美味ならん事を欲し毛皮を以て専用となすものは其毛の美麗にして且長さを貴ぶなり其他糞尿の類と雖も皆有用ならざるいなと然れども從來我國にては食料に充て毛皮を得るが爲めに飼育せざして啻に愛翫の爲めに養飼するを以て彼の明治五六年度の頃玩弄兎の盛んに流行せし時に際しては人心殆んど狂するが如く當時東京を始め名古屋大坂等にては白の更紗と稱するものは貳百圓以上淺黄更紗は五拾圓内外其他米利堅種三毛茶更紗淺黄更紗鼠更紗杯云へるものに至りては千圓以上の價あり又此餌食に充つるが爲め豆腐殻は非常に騰貴し却て價豆腐の上に騰り是が爲めに破産するもの頗る多きと以て

其翌年其筋よては此弊害を除かん爲め兎一疋に付き一ヶ月一圓宛の賦金を課したればこれを飼ふもの俄に減ト隨て其聲價も地に墜ち昨日まで價數百金せしものも今日と壹錢の價もなく遂に之と近傍の藪或は濠等に投棄するに至れり之れ畢竟奸商輩が異種の兎を得て貴顯紳士を欺き巨利を縛したるに起因したるも當時單に之を玩弄物となすのみにして食用に供し毛皮を賣る等の便且利あるを知らず其實益の如何を顧みざるより此失敗を招きたるのみ蓋し實益の點より出でざる流行は永續すべきものにあらずるなり世人動もすれば明治六年の例を引きて養兎の不利なるを論ずるものあれども是れ虚實を辨別せざるものあり何とやらは彼れは無用の玩弄物にして是れは有用の衣食の料なり豈に

同一に論ぜべきものならんや世の牧畜に志あるの諸君子決して此妄説を信ぜざる事勿れ

○兎種類の事

兎は本邦及支那西洋等の諸種類凡二三十種ありて洋種の如きは未だ我國に舶來せざるもの多し肉食を以て貴重するものは「ベルギアンボール」「ヒマラヤアン」「シリエールクリーム」「バターニアン」の種類なり又毛も肉も二つながら良しきは「ゴールデンバターニアン」種とす以上の内「ベルギアンボール」種は即今多く佛國に飼育して専ら食用に充て性質健康肥大にして肉味頗る美なりとて即今予輩が飼育繁殖を謀る佛蘭西食料兎即ち是なり又從來日本に飼育せし種類は野兎の外無垢翁達摩垂耳珍眼箕引熟兎等の諸兎

にして多く愛翫兎の類なれども此内無垢は柔軟なる長き毛と生
 ざるを以て毛皮用に適するあり又箕引種は原來大和國の産に
 て舩格殊に巨大なるのみならず白色細長の美毛を生ト且性質健
 康多仔を産し最も良好の種ありしが明治六年兎流行の時に際
 と數多の種類と配合し終に雜種を作り當今は全く純良なる種類
 を失ふに至れり實に惜むべきの事あり毛色は黑白を始め淡黃鳶
 灰色棕色鹿斑黒點其他種々のものあれども即今我國にあるもの
 種類にては肉用のものは毛色の淡褐ある俗に胡麻毛と稱する
 ものを佳とし毛織物の料に白色を良しとす其純白なるものは
 如何なる色にも染得らるればなり又葡萄酒色のものは煖手套に適
 當せり故に西洋にては殊に其價貴くと云ふ○原來兎の其性快速

にして常に奔走して其体中の炭素を消耗し脂肪肉甚だ稀に且洋
 種食料兎に於ける其味の佳美なるのみならず肉の纖維細きを以
 て消化爲し易き故佛國人の如きは他獸の兎肉に勝るものなりと
 云へり實に衛生を重んずるもの、好き食料なり今日日本食誌中に
 記載せるブライス氏衛生報告に係る分析表を左に記して參考の
 一助に供ふ

兎肉水	蛋白質	脂肪	亞兒簡保兒 エキス及鹽	エキス	合計
外國産 七三、一七	二〇、九一	三、一五	一、五四	一、二三	一〇〇、〇〇

○兎鑑定之事

兎を買ふには耳を見るを簡要とす其耳の尖りて軟かあるものは

幼兔ちやうとかり尖鈍せんどんくして硬かたきは老兔らうとなり又耳みみの大なるものは必かなららむ
大なる兔うさぎなれば若もし雛兒ひなごにて買かふものは耳みみの大なるを撰まむべし
耳みみの大なるは多く垂たるゝを常つねとす故ゆゑに熟兔じやくとの如ごときは体小たいせうなるが
故ゆゑに耳みみも亦また小なるものなり重量じゆうりやうは通常つうじゆう七百目以上八九百目なる
もの多く其最重量さいじゆうりやうなるものは六百目に至り極きまめて重おもきものは壹
貫六七百目に達たするものありと雖いども熟兔じやくとは躰小たいせうにして肉少にくすくな
ければ其量そのりやうも亦また四五百目に過すぎ而して賣買ばいばいも重おもきに種類しゆるいの善惡ぜんあくと
躰量たいりやうの輕重けいじゆうに依より高下かうげを生せいずるものなり目色めいろは黒赤くろあか水色みづいろの三種しゆ
なれど毛けの白しろき種類しゆるいは概がいして目赤めあかし其生そのうまるゝや僅ちかに十二日間
を經へて始はめて目めを開ひらくあり成せい長ちやう期きは生せい后ご百二三十日ひゃくにじゅうさんにじゅうににして親おや
かり交尾かうびは七年なにして止やみ生せい壽じゆうは概がいして十二年じふにとす

○飼料種類しりやうしゆるいの事

兔うさぎの食しすべきもの甚はなた多おほしと雖いも今いま其概畧そのあらましと舉あげれば塘蒿たうかう旱芹かんせり菜さい
胡蘿蔔こんじんの葉は及根およひね蒿苳かうしや甘藍かんらん花椰菜はなはの葉は并根かふら蕪菁あめり亞米利加防風あめりかぼうふう生馬なまじやが
鈴薯らうじゆ蒲公英ほうぎよ薊あやみ葛葉くつのは蔦つた大豆だいずの葉は甘薯かんじゆの葉は青麥せいまの葉は豆腐糟とうふそう等らは最もつとも
適當てうたうの食物じよくもつにして兔うさぎも亦また好このんで食しするものなり就中なかつ胡蘿蔔こんじん葛葉くつのは
芹せり甘薯かんじゆの葉は蒲公英ほうぎよ薊あやみ豆腐糟とうふそうの類るいは兔うさぎの絶愛ぜつあいして食しざるものなり
此他まのた山野さんやに生せいずる草木そうもくは概おほね食しせざるものなり

○食餌分料じよくじの事

食物じよくもつを與あたふるには親兔おやとと雛兔ひなととにより多少斟酌たせうしんじやくすべしと雖いも概おほ
して其量そのりやうの多おほきに過すぎん事を要ようすべし然しかれども過量くわりやうの食物じよくもつを一い
時じに與あたふるは宜よろしからず或あるる説せつに兔うさぎに食しを與あたふるは一日兩次いちじつりふじと

すれと尤も確實なる飼養法は其既に成長せしものに與ふるには豆腐糟若くは青草ならは一月三四回朝晝晩夜共に百二三拾目の量を與ふべし而して春間には乾草を與ふるを最も好とす之れ濕氣少なきが故なり青蔬の外面に濕氣多きものは此際與ふべからざ又冬日草を與へんとするには豫め夏日に於て採り置き乾草となし貯へ置き之れを二三寸許に刻と微温湯を灌注して柔軟ならしめ而して糠を其上に散布して與ふべし又麥を與ふるには二晝夜間水に浸し此間五六回攪拌し后水を清まし麥を洗ひ猶一晝夜程水を切上げ芽の生ずるを度とし一時に之れを與ふるを可とす必らず生麥を與ふべからし而して雛兎に生麥を多く與ふる事あれば消化せざして斃るゝ事あり又牝兎の其兒に乳を與ふるの際

は其食量平生に二倍するが故に其割合に量を増し其兒自から食するに至れば母兎の食料を次第に減じ常食とあすべし凡そ兎を飼養するもの其食物の分量宜しきを得之れを温暖ならしめは牝兎は毎に能く子を産生すべし又茶の葉を搾りて與ふるは饗應の食と雖も毎日之れを與へて青菜類に代用するは甚だ不可なりとす

○兎飼養方注意の事

抑養兎者の最も至要として注意すべきは適宜の飼育と冬夏の注意となり故に餌箱内等は常に乾爽ならしめ冬日は温暖に夏日は冷涼に且空氣の流通するを要し蓋し此獸の性來として此の如き地に棲居するを愛するが故なり又入梅後或は大暑の候には殊に

注意せざれば雛の斃るゝ事多きもの故成るべく清潔に掃除し冬は温かならしめ充分に保護を加ふべし

○箱飼の事


飼箱の材料は桐樅杉何にてもよろし寸法は縦横各貳尺長さ貳尺五寸許の箱を造り一方を塞き三方を竹管を以て格子の如く箝め若くは鐵網にて張り上は揚げ蓋となし兎は上より出入れし箱へ入るれば蓋をなすべし又箱の底には敷簀を入れ尿を下底に墮し兎の体を汚さざる様にし此簀の上に藁を切り敷き飼育すべし此箱は冬は正面のみを明け二方を紙若くは布を以て塞ぎ温暖ならしめ夏は之れを取除け清涼からしむべし而して此箱の掃除は少なくとも一週間に一度は必らぎなすべし又別の庭内等し竹を以

て欄柵を設け地面には藁を敷き晝間の遊歩場となすべし

○兎放牧飼の事

食用兎飼育の有益なる事に付ては先年板垣伯が洋行より歸朝せらるゝや西洋各國養兎の實況を視察され我國に於ても多く是れを繁殖し細民に至るまで肉食を普及せしめたることの談話ありし由は既に先頃一二の新聞に記載せしを見たりし予も亦嘗て農商務次官石田英吉君より君が洋行中親しく見聞せられし歐米諸國に於ける養兎の現況を聞きしに彼の米國人民杯の兎類を飼育するは實に盛んなるものにてニールズ州よりペンシルヴァニア州に於て食用兎を飼養繁殖するもの其數幾許なるや精算枚舉に暇あらずといふ此他英佛獨等の諸國に於ても皆此食用兎を

飼育せざるはなく其飼育法は種々あれども概して箱飼放牧飼の二種となす放牧飼には大小の異別あれども先づ少許の土地に於て小資本を以て飼育せんとするには東南傾斜して雨後の水除け宜しく且つ乾燥地にて良草の多く繁茂すべき良き地質を撰み放飼する可なりとて此牧場の地質宜しくして良草繁茂の地ならんには我四反歩に凡六百頭を放飼する事を得べし其牧場の區域は高さ凡そ四尺位に土堤と築き廻らし其中心を竹木にて第一區第二區と順次五六區に區限り離乳の兒兔を此内み放つべし其順序は假りに母兔百頭をして同時に交尾せしめ此母兔三十日間を経過して分娩すれば後三日を過ぎ亦第二次の交尾をなさしむ而して廿七八日を経なは先づ其子を離乳し之れを第一區の牧場に

放飼するなり故に母兔一頭にして八頭の子を生産する豫算とすれば即ち八百頭の牧場と知るべし此順序に因れば翌月は第二次の分娩をなす故前同様の仕法を以て第二區に放ち順次第五區に至れば最前放したるものは既に産後五ヶ月を経たる親兔とある故此分より順次肉用に販賣し得べきなり兔を放牧するや各自穴を穿ちて穴居の準備を爲すもの故其穴の三方より竹幹を建て小さき穴舎を造るべし此穴舎は芽蘂杯を以て其上を  圖の如く蔽ひ以て雨露霜雪を防ぎ大暑炎熱を避くべし

○牝牡配合比例の事

牝牡交合の比例は牡一頭に牝十頭を適度とせざるも若し之れに倍加し牝二十頭を配合するも敢て妨げなしと雖も斯の如きは牡の

精力を疲らし交尾するも孕む事少なく且能き兒を得るゝ難きものなれば先づ以て十頭を適宜とするなり

○交尾及分娩の事

兎をして交尾せしめんと欲せば牝牡をして一所の柵内若しくは箱中に放つ時は直ち交尾するものなれども交尾の時期來らざるものは容易に爲さるもの故其期の熟するや否や知らんと欲せば先づ陰門を一見すべし若し其陰門紫色を帯ぶるものは是れ交尾期の熟せるもの故其兆と見なは即ち唾を塗りて後交尾せしむべし交尾の度は二三度若しくは四度を爲すものにて其交合するや瞬間なりと雖も家雞に比すれば稍遅し又甲ある牡をして一度交尾せしめたる牝を再び乙の牡と交尾せしむるも宜し此

他交尾の期既に至り牡兎の類りに交尾せん事を欲して挑むと雖も猶尾を肛門に箝挿て之を避くるの牝あり斯の如きものは其尾端を糸にて結び尾を脊中へ引き上げ養兎者は片手に牝の頭を押へ人工媒助法を行ひ交尾せしむべし○分娩後の交尾は二月を隔て五日迄に爲しむれば直ちに亦胎孕ものなり斯くおして再び孕むと雖も嘗て乳汁の止る事なく又身体の疲るゝ事も決してなきもの故分娩後の交尾は必らざる此期を失ふべからず○分娩の期は孕たる後三十日を定めとせれば稀は三十二三日なるもあり此定日を過ぎて生れし子は強健にして極めて生育宜しきものなれど定日足らざりて生れしものは過半は斃るゝものなり○孕を知る法に種々あれど先づ何人にも曉り易きは交尾せし後七八日を

過ぎ再び交尾と試み其喜で交尾する者と孕ざるものにて牡の交尾せんとするも厭ひ避るものは以前孕みしものなり又交尾せし後七八日を経て乳房を驗すべし乳房若し桃色に變るに至らば以て胎孕の證となすべし○既に分娩の期至れるの兆候は親兔自身の毛を抜き藁を集め産蓐を造るなり然るが否暫時にして生るゝものはり若し其毛を抜かざるものは果して子を充分に育つ事能はざるものなれば若し斯の如き親兔あらば他の能く子乳汁を飲ましむるものゝ方へ移し換べし之れを乳母の交換法といふ是れは随分難きものゝ如く思へども誠に易きものなり何となれば都て兔は嗅ぐに敏なれども見識に鈍きもの故他兒を移すに臨み注意して其交換せる今の親兔の尿を移したる兒の体塗

り付繼親をして自他と識別せざらしむべし若し然らざる時は乳汁を與へざるものなり

○兒なき牝兔に兒を生しむる事

牝兔既に成長の極期に達し子を産ざるものは毎朝乾草或は苜蓿の少量及び時に適せる植物兩三種を與へ午後に至りて上種の穀物二握を其食器に備へ夜に入り馬鈴薯の一兩箇を煮其他の植物と共に之を與ふべし而して其朝に與へし食物皆尽たるときは更に乾草或は苜蓿の少量を與ふべし必らぎ其他の物を食はしむべからず斯くなす時は終に胎孕するに至るものなり

○病兔治療法の事

兔病には種々あるべしと雖も今養兔者の心得置き救濟せざるべ

からざる病種の概畧を云は、眼鼻涎下痢枯瘦等の諸病とす其治療法は○目の病は清水を以て屢々洗浄すれば治されども若し斯くならしても愈されば龍腦を水に溶かし用ふべし○鼻の病ハ鮑の貝殻を焼き粉末となし種油にて塗抹をべし○涎の病は重もに時候の變換より發し雜の中に最も多きものなり若し此病に罹らば焼明礬四分程を水三十滴程に溶かして口鼻に塗り其殘餘を飲まじむべし又石炭酸に水百倍程混和せし液汁を以て口の周圍を洗ふ事一日三度づゝすれば治する事妙なり○下痢病を腐敗したる食物を與ふるか水分多き菜草を過食せしむる等に原因するもの多し而して子兔の下痢ハ大抵胃寒に因り母兔は鹿食を食ふ時に發る此病も焼明礬を與ふれば治すと雖も其病初發のものは燕麥

若しくは稗麥の炒りたるものと檉の實を取り能く褐色となるまで炒り後之れを粉末となし一回の分量三分づゝ毎日三回づゝ與ふべし又檉の葉を與ふる事半日或は一日よして愈ゆ若し重症に至らば葛根を煎服せしむべし此病は傳染するもの故病兔ハ他に別居せしめ其箱は洗浄し傳染せざる様注意すべし○大便秘閉之れが爲め膨脹し或は腹痛を起すとあり即ち便秘病なり此治法は灌腸器を以て肛門より直腸に注射すべし斯く爲すと雖も猶便秘強固なれば夫より二時間を過て亦灌腸するなり此施法は蜂蜜を微温湯にて溶じ小なる灌腸器を用ひて灌注すべし○枯瘡病は腹膨れ瘡瘦る病あり此病は食物の常に變らぬ食し敢て病狀なきが如しと雖も漸次に瘡て斃るゝもの故青艸の水分あるものを

與へ又清水少許を飲ましむべし○此他頭の扣彎る病あれど未だ
 宜しき治療法ありといふ○又親兎己の兒を咬み殺すもの往々何
 り予が曩に飼養せし佛國種の親兎は一時三雛兒を咬み殺せり
 之れ其胞衣を食ふを誤るものと云ふと雖も未だ其理を明め若
 し斯かる兎の出づる時は檀香を其箱の中に散布し或は兒の顔面
 を除け其体に散布するか乳親を交換すべし

○兎割剖調理の事

若し兎を屠りて食用に供せんとせば先づ數日間乾草若しくは胡
 蘿蔔等を與へ而して後燕麥及び籾としたる燕麥を與ふべし然る
 時は其肉最美の風味を生ず又兎の肉は捕殺せしより若干の時間
 を経るか若しくは一日を置き食するを良しとす斯くすれば香味

を増し咀嚼事易く消化し易し之れを割剖せんとするには始め先
 づ先肢の後方に左の手を挿し入れ肺及び心臟を絞め右の手にて
 後肢を束ね後に引く氣味よして暫くすれば死するものなり又頸
 元を左手にて持ち右手に小なる金槌を持つて兎の頭部即ち兩耳
 の間を打てて一回よして斃るゝものなり此法の容易にして更に
 簡便かり而して死するの後は刀を以て腹の中心を真直に切斷し
 四肢に及ぼし頭に剥ぎ終り其後臟腑を出し肉を取り適度に切り
 て食用となす事猶牛肉豚肉と異なる事なし

○兎皮を製する事

兎皮は前法に依り割剖したる皮を一夜石灰水ニ浸漬し夜明て後
 引揚ゆ之れを石鹼若しくは明礬水にて克く洗ひ猶屢々冷水を以て

充分に洗淨し乾くまでワク板に張り日光に晒し乾かした後蛤齒形に造りたる木の臺に當て兩手に皮の兩端を持ち皮をこすりて揉み皮となすなり其方法ハ先づ小杆を以て刺繡臺の如き二尺四方のワク臺を造り皮を此上に敷き恰も三絃の皮を張る如くなく皮の周圍の縁に數十個の鈎を引懸け鈎には麻糸を附し此糸の端には石瓦の類を以て重量百五六十目に重錘を垂下して皮を撓まさる様に伸張し乾燥したる上は輕石を以て皮に附きある殘肉を摺り取るなり

○兎の毛を採取する事

皮に附し毛を取るには水貳升を以て熱湯と爲し置き其中ハ「カセ」イソウダ「貳」許を入れ能く溶解するを見て桶に移し温湯になり

たる時兎皮を浸し十分間位を置き後毛を掃下し然る後此毛を能く絞り上げ猶清水に入れて能く洗ひ又絞り上げ而して日光に晒そあり○此兎毛を糸に製するには兎の毛壹貫目ハ木綿壹貫目を混和し之れを撲ち夫より糸を製して織物となし毛を取りたる皮は下駄の鼻緒に用ひ其他種々の革細工に使用せ

○以上ハ掲るものハ兎飼養方法の概畧を記する者にして編者の食用兎繁殖を以て専用とあすが故に書名も食用兎を以てすと雖ども單に食用種のみに限らず何れの兎類にても此方法に據り飼育せらるゝなり依て卷末に此事を添言す

明治廿二年五月廿二日印刷並出版
明治廿四年十一月十三日印刷並再版

定價金拾五錢

版權
所有

香川縣讚岐國三木郡池戶村
秋田縣仙北郡花館村佐々木多右衛門方寄留

著者 香川縣平民 奈良專二

東京市麻布區麻布六本木町四拾三番地寄留

石川縣士族

德山庄次郎

發行者 兼印刷者

東京市麻布本村町 學農社

全麻布廣尾町益農園 石川丈吉

全日本橋區通壹丁目五番地 須原屋茂兵衛

全京橋區南傳馬町二丁目十三番地穴山篤太郎

賣 捌 所

2P-60

總町十丁目圖書活版所印刷